★ベネズエラ支援物資トラック炎上の真相＝田中　靖宏

「戦争はウソから始まる」。ジャーナリズム論の大家たちが繰り返してきた警句だ。旧日本軍の「大本営発表」しかり、米国が海外で繰り返した戦争も、かならずといっていいほど虚報がともなっている。

今から 12１年前の 1898 年２月 15 日、ハバナ港に停泊していた米国の戦艦メイン号が爆沈した。日本人を含む 260 人が死亡。間もなく米海軍の調査委員会が「外部からの機雷による爆破」と発表し、キューバを統治していたスペイン政府の責任と追及した。

後の調査で事故説が有力となったが、扇動的な商業新聞の論調とあいまってスペインへの制裁論が高まった。２か月後、マッキレー大統領は植民地の圧政下で広がる飢餓救済を唱えて開戦した。

1964 年のトンキン湾事件。米戦艦マトックスが北ベトナム高速艇の攻撃をうけたと発表、米軍は報復の北爆を開始した。米議会は大統領に戦争を白紙委任する戦争権限を付与した。これを機にベトナム侵略戦争はインドシナ全土に拡大した。その後、米議会の調査やマクナマラ国防長官（当時）の証言から、米軍の自作自演であることが明らかとなった。

最近、ベネズエラとコロンビアの国境でおきた援助物資の搬入をめぐって衝突事件（２月 23 日）。数百人が負傷し、橋の上で立ち往生した２台のトラックが炎上した。これについて米メディアは搬入を阻止しようとした「マドゥーロ政権の治安部隊から火炎瓶が投げ込まれた」と報道（ＣＮＮ他）した。

ペンス副大統領はすかさず「マドゥーロ派が自国民に牙をむけるのを世界は見た。国民が待ち望む食料と医薬品を積んだトラックに彼らが火をつけたのだ」と非難。「「カラカスの暴君は、忠実な部下が市民を殺し、食べ物や薬を燃やしたのでダンスしている」とツイッターに投稿した。これをメディアが報じて人道物資搬入を阻止する非人道政権のイメージを拡散した。

実際は逆で、コロンビア側にいたマドゥーロ政権への抗議グループが投げた火炎瓶が原因だった。監視カメラがその模様を写していた。この証拠映像は早くからベネズエラの国営放送などが報道、一部のフリー記者によって報じられていたが、大方の世論も新聞も無視した。

米紙ＮＹＴは最近になって、入手した監視カメラの映像から反マドゥーロ派の犯行と原因を特定した（３月 10 日付）。米政府や他の大手メディアは報道も訂正もしていない。

米政府とグアイド派は、この人道援助搬入を突破口に、政府軍や治安部隊の寝返りを期待、「軍事介入」の口実にしようとしていた。その策動はラテン・アメリカ諸国の反対で当面は失敗したが、同国では直後から全国的な停電が一週間も続き、今後何がおきてもおかしくない緊張が続いている。（平和新聞 3 月 25 日号）